

『みんなの笑顔のために』

菊水小学校リサイクル品回収

本年度2回目のリサイクル品回収を下記の計画で実施いたします。保護者の皆様には、大変お世話になります。この活動を通じ、子供たちが資源再利用の大切さを学ぶとともに、その収益金を図書の本や備品購入など子どもたちのよりよい学びのために活用させていただきます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

1 日 程 令和4年12月4日（日） 東・西・南 8:00～9:30

中 央 9:00～10:30

2 回収品 ビン類：一升瓶（茶色と緑のみ）、ビール瓶（ふたは外す）

紙 類：新聞、雑誌、本、段ボール（※同類で仕分けして）

缶 類：アルミ缶とスチール缶は必ず分ける

鉄 類：（自転車などはタイヤを外す）

※布類（衣類等）は回収できませんのでご了承ください。

3 回収場所 菊水小学校運動場

昨年度の収益金で体育館のワイヤレスアンプを購入させていただきました。体育館の放送設備がよくなつたおかげで、体育館での学校行事や授業など、よりよい環境で実施できるようになりました。保護者の皆様のご協力に感謝申しあげます。



ボランティア精神

リサイクル活動も、保護者の皆様や地域の皆様のボランティア精神に支えられて実施できています。

今、サッカーのワールドカップが開催されていますが、日本人サポーターの姿が海外メディアからも称賛されています。ネットニュースの一部を紹介します。

日本代表はカタール・ワールドカップのグループステージ第2戦でコスタリカと戦い、0-1の敗北を喫した。スタンドで声援を送ったファンも肩を落とした。しかし、日本人らしさはしっかりと貫かれたようだ。米スポーツチャンネルは試合後にさっそく、ブルーのポリ袋を片手にゴミ拾いをするファンの姿をキャッチ。「負けた後でも、日本人のファンは必ず後片付けをする」とコメントを添えて写真を公開している。また、仏メディアなども同様のニュースを伝え、定番となったゴミ拾いの姿に称賛を送った。特に『CanadaNews』は「コスタリカ戦の敗退でグループEでの勝ち抜けが遠ざかったが、日本のファンはスタジアムの後片付けを手伝って、気品を見せた」と伝えている。「痛烈な敗北だった。W杯における夢が破れそうになったにもかかわらず、彼らはボランティアのスタッフたちと一緒にゴミ拾いをしていた。他のサポーターたちは、とっくにスタジアムを去っていたのに、傷ついたファンは気温34℃のなか、ゴミ拾い、ゴミ袋に詰めて綺麗にすることを忘れなかった。そんな姿を見て、こんな声が上がった。『この人たちはW杯の眞の勝者だ』と。彼らは勝っても負けても、これをやるのだ」日本サポーターの一貫した姿は、世界のフットボールファンから評価を高め続けている。

サッカーFIFAワールドカップ2022で会場のごみ拾いを積極的に行ったとして、日本のサポーターがカタールの運営委員会から表彰を受けました。表彰を受けたのは開幕戦の終了後、会場でごみ拾いを行っていた日本のサポーター約30人です。運営委員会は「感銘を受けた」として急きょ表彰することを決め、サポーターに記念品を贈りました。

